

工業会活動

令和元年度JAQG活動報告会について

1. はじめに

JAQG (Japanese Aerospace Quality Group) は、世界の航空宇宙業界における品質活動をリードするIAQG (International Aerospace Quality Group) に対応した国内組織として、2001年当工業会 (SJAC) 内に設置された。品質に関する国際統一規格の制定、認証制度の確立を図ることにより、品質改善とコスト削減を行うことを目的としている。2001年当初79社で設立したメンバー数も、現在、500社に達し、多くの方のご指導を受けながら活動を展開している。

ここでは、今年2月にJAQGメンバーに向けて開催された令和元年度JAQG活動報告会の様子を紹介する。

2. 報告会概要

JAQGは、

JIS Q 9100認証制度の運用と監視

国際品質規格の普及 (翻訳出版)

品質保証に関するガイダンス/ベストプラクティスの提供

国内業界意見をIAQG活動へ反映

世界のプライム企業の品質要求動向把握等の活動を通じ、我が国航空宇宙産業の品質向上、業務の効率化及びコストの引き下げを図っている。

今回、JAQGの活動状況をJAQGメンバーに向けて説明するため、各ワーキンググループがJAQG活動目標達成に向け、どのように取り組んでいるかに焦点をあてた報告を行なった。



報告会の様子 (東京会場) ; 2/5開催 参加者数 : 178名、参加企業・機関数 : 102



報告会の様子（名古屋会場）；2/7開催 参加者数：153名、参加企業・機関数：89

また、特別講演として、Mr.Robert Barstadt (Boeing Supplier Quality Senior Manager) による「Boeing社における品質改革の取組み」と題して講演が行なわれた。



特別講演 Mr. Barstadt
(Senior Manager、Boeing)

なお、報告会に先立ち、新たにJAQGメンバーになることを検討している企業および新規に会員となったメンバー向けにJAQGの活動を紹介する入会オリエンテーションを開催した。

3. 報告会の内容

報告会での報告内容（概略）を以下に示す。
（報告順。（ ）内は報告者）

(1) JAQG活動報告

（森下 伸夫 JAQG幹事長（三菱重工業株式会社））

昨年3月に開催された2019年度運営委員会で承認された活動戦略、事業計画に基づき、計画通りに活動が実施されていることが報告された。具体的には、IAQG活動への対応、国内への展開、IAQGへのフィードバック活



森下 JAQG幹事長（三菱重工業株式会社）

動、JAQG独自戦略の強化、強固な品質マネジメントシステム構築に向けた活動の推進、監督官庁等のステークホルダーに対しJIS Q 9100シリーズ規格やその認証制度をご活用いただくための支援を継続していること、等である。特に、強固な品質マネジメントシステム構築に関しては、昨今国内で発生している不祥事事案への対応として、規格（規格検討WG）、認証制度（JRMC）、ガイダンス文書（SCMH WG）それぞれの視点から対策を検討したこと、又9110/9120認証制度立上げに向けた検討を行い、幹事会で9120に基づく認証制度立上げに合意したことなども報告された。

(2) JRMC (Japan Registration Management Committee; 航空宇宙審査登録管理委員会) 活動報告

(松田 豊 JRMC議長 (川崎重工業株式会社))

9100規格の認証制度では、9001等の他の認証制度とは異なり、業界が自らスキームオーナーとなって関係機関を承認し監視する仕組みを構築することによって、制度自体の信頼性を高めている。JRMCは、このスキームオーナーとしてJIS Q 9100の認証基準の整備を行うとともに、認証制度の維持・管理活動を行っている。令和元年度の主な取り組みとして以下の報告がなされた。

- ・ 認証制度の信頼性の維持・向上のため、ICOP (Industry Controlled Other Party Certification) スキーム規格に従い、国内認証制度の監視を計画通りに行った。(認定機関：1、認証機関：5、審査員資格証明機関：1、研修提供者承認機関：1)
- ・ 審査員の資格基準や認証プログラム基準(9104シリーズ規格、9101規格)のIAQG改正作業へ参画した。
- ・ JRMC会議/ワークショップを開催した。

- ・ 関係機関に対して実施した定期オーバーサイト結果の活用とOP監査員の力量向上を図った。
 - ・ 認証制度拡大(9110/9120)の必要性・実現性の検討を行った。
 - ・ IAQGのOASIS (Online Aerospace Supplier Information System) 改善検討チームに参画し意見提言を行った。
- また、国内で発生した不祥事事案を基に、第三者認証制度における不祥事への対応については、

- ・ SJAC9068適用組織に対する、第三者認証審査における推奨事項(ガイドライン)の発行に向けた検討を行った。
 - ・ 現在IAQGで検討中の9104-1規格案に、JRMCからの提案に基づき「倫理的な問題が明らかになった場合、認証機関による認証の一時停止、取消しを行う」旨の要求が盛り込まれた。
 - ・ 報道等により不祥事が公になった組織を認証している認証機関に対し、認証維持の可否について早急な報告を求めるものとした。
- 等の対策を行ったことが報告された。



松田 JRMC議長 (川崎重工業株式会社)

(3) ワーキンググループ (WG) の活動報告 (各WG主査/各WGメンバー)

各ワーキンググループ (WG) 活動の今年度のトピックスを中心に報告を実施した。

(a) 規格検討WG活動報告

(岡本 勇司 主査 (株式会社 SUBARU))

IAQGでの規格の制定・改正活動に参画し、JAQGとしての意見を積極的にIAQGに対して提言した。IAQG規格に対応する国内規格の制定・改正作業については、国内での適用性、有用性について検討し、下記SJAC規格の制定作業を実施した。

SJAC 9131 「不適合データの定義及び報告書」 2019年8月発行

規格の理解促進のため、IAQGで作成される規格の展開支援文書 (FAQ等)、ガイダンス文書の日本語版資料の作成・維持作業を行い、9100成熟度モデルの作成の概要に関する展開支援文書の作成状況等が報告された。

又、国内独自の規格として、国内で発生した不祥事案に対応するためのSJAC9068「強固なQMS構築のためのJIS Q 9100補足事項」

の改訂作業を行っていること、SJAC9053「模倣品防止プログラム」の制定作業状況に関する報告が行われた。

(b) SCMH (Supply Chain Management Handbook) WG活動報告

(太田 茂雄 主査 (住友精密工業株式会社))

SCMHとはサプライヤーのためのガイダンス文書、トレーニング資料、ベストプラクティスを集めた既存の規格を補足し、「どうすれば要求事項を満たせるのか」又「どうすれば改善、向上を図ることができるのか」に焦点を当てた文書であり、その開発はIAQG戦略の重要な活動の一つである。SCMH WGは、このSCMH開発に関しIAQGレベルで参画している。2020年1月現在で36項目のSCMHが発行されており、又IAQGは新たに5文書の作成・改正に取り組んでいる。SCMH WGでは、作成・改正されたSCMHの和訳作業を順次実施し、その成果をJAQGメンバー専用ページに公開、JAQGメンバーへの普及を行っている。

今年度は、IAQG SCMH文書8件の和訳版を作成、更に現在3件の和訳作業に取り組んでい



岡本 規格検討WG主査
(株式会社 SUBARU)



太田 SCMH WG 主査
(住友精密工業株式会社)

ること、及び、過去の不祥事案に学んだ防止への取組みを「強固な品質マネジメントシステム構築」のためのガイダンス文書として作成（既存6文書に加え7文書目）し、2020年1月にJAQGウェブサイトにて公開したことが報告された。

また、昨年度に引き続き、SCMH説明会を東京と名古屋で開催して、それぞれ約100名程度の参加者の90%から“満足度が高い/やや高い”との評価がなされたことが紹介された。

(c) 特殊工程検討WG活動報告

（堀田 彰彦 主査（川崎重工業株式会社））

特殊工程検討WGは、JAQGメンバーが特殊工程プロセスの国際認証制度であるNadcap認証を取得/維持するための支援を実施している。主要な活動としてNadcap監査基準であるAC（Audit Criteria）チェックリスト日英対訳版58アイテムをJAQGメンバー専用ページに公開していること、近年は掲示するコモディティ、アイテムの拡充に取り組んでいることが報告された。

また、Nadcap認証制度の管理運営母体であ

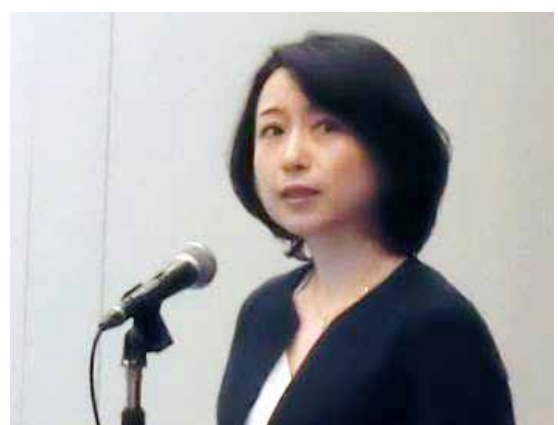
るPRI（Performance Review Institute）の技術委員会に日本のサプライヤーの意見を提言したこと、SAE（Society of Automotive Engineers）のAMSスペック担当ディレクターと調整の上、意見提言等のシステムを構築し運用を開始したこと、Nadcapの理事会にJAQGメンバーを派遣し日本からの意見発信や情報収集等を実施していることが報告された。

現状Nadcap審査員は外国人が多く、審査は英語で実施されている。かねてより日本人審査員による日本語の審査の機会を増やすことがJAQGメンバーから要望されていたが、当WGの日本人審査員増員支援が実り、新たに日本人審査員が1名誕生したこと、Nadcap初心者向けの資料をPRIの了解のもと和訳しJAQGメンバー専用ページに掲載していること等も紹介された。

本年度のWG活動のトピックスとして、ダヴェンポート 悠 様（PRI日本事務所 マネジャー）に、Nadcapの最新活動状況を紹介して頂いた。



堀田 特殊工程検討WG 主査
（川崎重工業株式会社）



ダヴェンポート 悠 様、
PRI 日本事務所 マネジャー

(d) スペースフォーラム活動報告

(武内 広一郎 主査 (三菱電機株式会社))

JAQG スペースフォーラムは、国内宇宙業界が一体となって、JIS Q 9100品質マネジメントシステムを展開し、日本の宇宙製品の品質の著しい改善とコスト低減を図ることを活動方針としている。

平成27年度には9100規格準拠のJAXA品質要求文書「JMR-013 品質プログラム標準（基本要件JIS Q 9100）」が国内宇宙業界の共通的な品質規格として発行された。昨年度に引き続き、このJMR-013が呼び出される適用JAXAプロジェクトの拡大支援を通じ、国内企業における9100規格の適用拡大と活用の推進に努めていること、IAQG スペースフォーラムへの参画・提案活動を行っていること、各国の最新動向を国内活動に反映していること、IAQG スペースフォーラムが企画する「宇宙固有要求」をまとめたガイドラインを作成するプロジェクトに参画していること等のスペースフォーラム活動が報告された。

また、アジア・太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF-26 2019年11月名古屋) で、9100規格採用によるミッションサクセス、IAQG/APAQG概要と最近の活動、9100規格をベ-



武内 スペースフォーラム 主査
(三菱電機株式会社)

スにしたJAXA品質標準JMR-013の紹介を行ったこと、等が紹介された。

(e) コミュニケーションWG活動報告

(前畑 貴芳 主査 (JAQG事務局))

本WGではJAQGウェブサイト維持・改修、JAQGニュースやウェブ通知、各種説明会の企画、JAQGメンバーからの直接問い合わせ等を通じて会員へ最新情報をタイムリーに提供している。

今年度は、46件のJAQGニュース配信を行ったこと、IAQGニュースレターの和訳版をJAQGウェブサイトに掲載したこと、JAQGウェブサイトの改善概要、JAQG活動報告を「航空と宇宙」(日本航空宇宙工業会会報)に掲載していること等、JAQG広報推進に関わるWGの取り組みが報告された。



前畑 コミュニケーションWG 主査
(日本航空宇宙工業会)

(4) IAQG/APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 活動報告

(山下 昌信 APAQGセクター・リーダー (株式会社 IHI))

IAQG/APAQG活動に参加する目的は、品質関連の国際会議に積極的に参加し、日本の航空宇宙産業の意見を国際品質規格や国際航

空宇宙認証制度のルールなどに反映させることである。

2019年は、IAQGアトランタ会議（2019年5月）、IAQGベルリン会議（2019年10月）、APAQG神戸会議（2019年3月）、APAQGシンガポール会議（2019年9月）に参加し、9100シリーズ規格他、新規規格の開発・維持、航空当局・防衛・宇宙等のステークホルダーとの関係強化、品質改善活動（パフォーマンス評価）、APAQGメンバーカテゴリーの再構築、等について協議したことが報告された。



山下 APAQGセクター・リーダー
（株式会社 IHI）

4. おわりに

以上、今年度のJAQG活動報告会について内容を紹介した。JAQGメンバー数は近年増加の一途を辿っており500社に達した。本活動報告会では、両会場ともJAQG活動についてご理解を深めていただくとともに、活発な質問、ご意見を頂戴した。頂戴したご意見は今後のJAQG活動の参考とさせていただき、メンバー会社の品質向上、コスト低減への一助となるように活動を進めていくので皆様のご指導、ご鞭撻を切にお願いする。

なお、報告会当日の配付資料のPDFファイル版は、JAQGメンバー専用ページに掲載されている。

詳細は以下を参照されたい。

メンバー専用ページ

→JAQG活動報告会/説明会

リンク先：<https://jaqg.sjac.or.jp/member/modules/smartsection/item.php?itemid=591>

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター (JAQG) 事務局 部長 前畑 貴芳〕